

国際会議報告

流通とサービス科学に関する第2回国際会議

SECOND INTERNATIONAL CONFERENCE ON RECENT ADVANCES IN RETAILING AND SERVICES SCIENCE

近藤勝直

Katsunao KONDO

正会員 工博/商博 流通科学大学教授 情報学部経済情報学科 (〒651-21 神戸市西区学園西町)

1. はじめに

昨年に引き続き、今夏も機会を得てオーストラリアで開催された Recent Advances in Retailing and Services Science Conference と題する国際会議 (7/11~7/14) に参加したのでその概要を報告する。昨年初めてオーガナイズされたこの国際会議は、経済のサービス化/ソフト化を背景として、流通、交通、地理、マーケティング、ホスピタリティ、観光など諸分野の学際的交流の場として、また研究者と実務家の交流の場として、昨年は5月にカナダのアルバータ州バンフの奥のレイクルーズで、本年はゴールドコーストで開催された。来年は6月にオーストラリアのインスブルックでの開催が決まっている。

これら3つの開催地をみてもわかるとおりいずれも世界有数のリゾート地である。日本に順番が回ってきたら一体どこで開催すればよいのであろうか。札幌、箱根、軽井沢、京都、神戸……と思い浮かべてみてもどうもしくり来ない。夏休み前のシーズンオフに、格安航空チケットで、かつ一流ホテルを割引で……という条件は満たせるだろうか……と悩みは尽きないが、それはさておき、会議の目的がリゾート地で開催されるというそのこと自体に意味を持たせている節がある。Retailing と Service そして何よりも集客力の実態が体験できる。

会議のオーガナイザーの H. Timmermans 教授 (Eindhoven University of Technology) はトリップチェーン研究などを主とするオランダの交通研究の分野の研究者であるが、彼も最近では交通分野を超越して、会議タイトルが示すような分野へと進出/転身(?) しつつあり、流通/サービス分野の学際化および諸分野で開発された科学的手法を流通/サービス分野へ適用しようという姿勢がみられ、我々の意図に近いものを共有する研究者の存在に自信を深めた次第である。

会議内容の詳細について紹介するスペースはないが、

全体にペーパープレゼンテーションは大ざっぱで、自然科学や工学分野の国際会議のように綿密でカリカリしておらず、研究のアイデアや分析のフレームワークを交換し合い、25分間のプレゼンテーションを楽しむという風情を感じた。セッションの合間のコーヒープレイクやランチタイムそして毎夜のディナー時には交流が盛んであった。

2. 会議概要

さて、前段が長くなったが、過去2回の会議内容の紹介に入って行きたい。最初に簡単な統計をとっておく。昨年の場合、3日間での総セッション数は55、発表件数は182件、3日間とも6つのパラレルセッションとなった。セッションの内訳は以下の通りであった。開催順に並べてみる。()内は2以上のセッション数である。この分布から現状での研究テーマの分布を知る目安となる。

Commercial Development/Redevelopment, Retail Capital and Retail Culture (3), Shopping Center Research, Consumer Systems in Retailing (2), The Suburban Shopping Mall, Ethical Perspectives, Retail Directions: Building a Future, The Distribution Sector in Japan, Retail Clout, International Developments (5), Retail Channels, Retail Productivity, Issues in Salesforce Management & Training (2), Internal and External Exchange Perspectives, Segmentation, Store Performance, Advertising & Promotion, Managing Professional Service Firms, Merchandising and Pricing (2), Service Quality (6), In-home Shopping, Patronage (3), Franchising, Models in Retailing (5), Image Research (2), Consumer Behavior (4), Strategic Alliances, Consumer Attitudes and Motivations, Retail Strategy (2)

つぎに各ペーパーのヘッドオーサーの国別分布を調べてみると、以下の通りとなっており、アングロサクソン系の会議という印象は拭えない。

U.S.A. 52, UK 37, Canada 30, Netherlands 9, Japan 7, Australia 6, Sweden 3, Germany 3, Finland 3, Belgium 2, Spain 2, Hong Kong 2, New Zealand 2, Singapore 2, China 1, India 1, South Africa 1, Finland 1

本年は、3日間で総セッション数28で96件の発表、3部屋でのパラレルセッションとなり、昨年より規模が半減した。やはりオーストラリアでの開催という地理的不利は拭えない。セッション名は簡略化され、

Service Quality (2), Retail Strategy (2), Models (3), Methodology (3), Consumer Behaviour (2), Patronage (2), Location Issues (2), New Technologies, Retail/Tourism Policy, Service Research (2), Retail Marketing, Pricing, International Retailing, Human Resource Management, Distribution Channels, Retailer Behaviour, Retail & Services Economics, Retail & Services Networks などとなった。

なお、各ペーパーのヘッドオーサーの国別分布は以下の通りであった。

UK 26, U.S.A. 20, Australia 19, Netherlands 8, Canada 7, New Zealand 4, Northern Ireland 3, Japan 3, Germany 2, Hong Kong 1, Israel 1, Denmark 1, Singapore 1

いくつかのセッションに顔を出したが、会議名称が示すほどには「流通とサービスの科学化」は進展しておらず、科学的分析よりもむしろ「戦略」とか「政策」の方が優先する世界であり、科学としての体裁を整えるにはいましばらく時間を要するとの印象を受けた。言い換えると、自然科学出身の我々が使用する意味での「科学化」にはなじまない部分が相当あることも認めなければいけない。ただ、我々が交通サービスを含む公共サービスの質やイメージについて議論する時期には来ており、その意味ではこの分野および研究者たちとの交流の場を確保しておくことは有意義であると思われる。

なお、会議で報告されたペーパーからいくつかを厳選してレビューしたものを中心にしたジャーナルが昨年から発行されているので、ご関心のむきはそちらをご覧ください。(Journal of Retailing and Consumer Services, BUTTERWORTH-HEINEMANN, Quarterly, ISSN: 0969-6989)

(1995.8.10 受付)

3次元地質解析システム

未来設計企業
CRC

GEORAMA

プログラムの概要

GEORAMAは、フィールド調査で得られたデータ(ボーリング等)を編集、それを基に推定を行い、**3次元地質モデル**を構築します。そして出来上がったモデルから**断面(地質・岩級・地下水位図等)**の出力、**土工計画(法面の設計、土量計算、斜面安定計算)**への利用、**地盤FEM解析(3Dメッシュジェネレート)**のプレ処理を行う**地盤のための総合的なシステム**です。

プログラムの機能

- マルチウインドウでの図化表示、データの表形式入力(コピー・ペースト機能)、データ位置のマウス・デジタイザ入力等により3次元地質モデルの構築をグラフィカルな環境の下でインタラクティブに行うことができます。
- 出力図面としては、地形・地質・岩級・地下水位・柱状図等を水平・鉛直・任意断面または3次元的に図化できます。またブロックダイアグラムやパネルダイアグラム、ルート沿いの地質断面図出力も可能です。
- デジタイザを利用することにより地形図、地質断面図、平面図の形状をデータとして取り込むことが可能です。
- 節理データの処理としてステレオネット投影、図の作成及びクラスタリング計算による方位、分布の解析、任意断面での節理方向の表示が可能です。
- ボーリングで入力した各種物性値を任意断面図、または3次元のコンターとして表示し、その分布傾向を判断できます。

土工計画への利用

GEORAMA/V

- 複数の法面を**施工段階ごと**に作成し、その状態での地質図を確認することができます。
- 切り盛りした土量は、地質ごとに出力し、各種のグラフでみるすることができます。
- 作成した法面での**斜面安定計算**を行います。

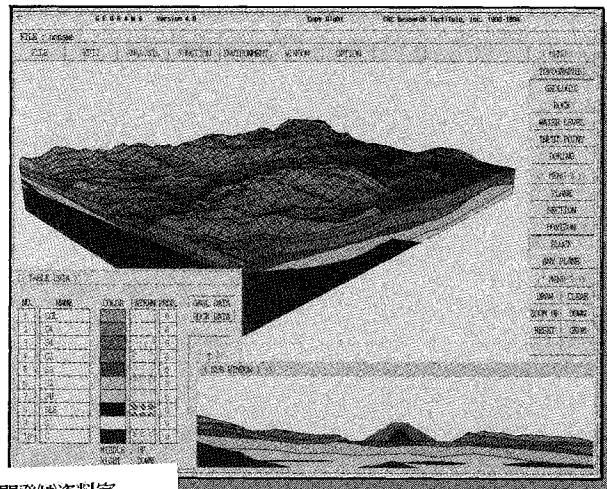
FEM解析への利用

GEORAMA/G

- 作成した地質モデルから3次元のFEM解析用の**地盤メッシュ**を地層の境界を考慮して作成することができます。
- トンネル等の**構造物のメッシュ**を作成し、地盤のメッシュとリンクすることができます。

プログラムの特徴

- 地層面の推定では、地形の傾斜方向の考慮、走向・傾斜データの利用、データ分布が密な地域でのさらに詳細な推定等を行うことができます。
- 地質構造の表現として**不整合や貫入、断層、レンズ層**等を年代を考慮して表現できます。
- モデルの修正は、画面上の断面図で行うことができます。修正された断面は、3次元地質モデル全体に反映されるので**各断面図間の整合性を保つ**ことができます。



日本技術開発株式会社資料室

株式会社 **CRC** 総合研



〒541 大阪市中央区久太郎町4-1-3
(06)241-4121 営業担当: 岩崎

パソコン用、準3次元広域地下水変動解析プログラム

未来設計企業

CRC

PC/UNISSF Ver.3.0 for Windows

“PC/UNISSF Ver.3.0”は、すでに汎用機やEWSで実績のある準3次元広域地下水変動解析プログラム、UNISSF(V-2)に強力なプリ・ポスト処理プログラムを付加し、Windows版として新登場しました。このプリ・ポストプログラムは、マウスを使ったメニュー形式の導入、画面上での入出力等の機能により、すぐれた操作性をもたらします。

新登場!

プログラムの特徴 (☆印は新機能)

■プリ処理

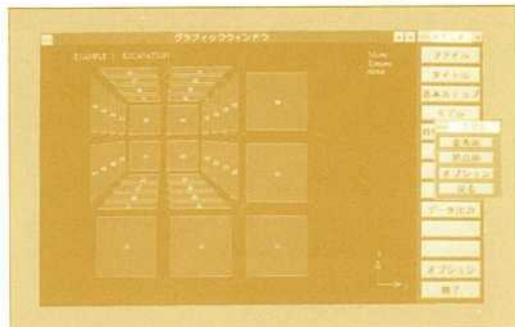
- ☆モデル作成のためのメッシュジェネレート機能
- ★地層データ、初期水位データ等の自動発生機能
- ☆モデル図を参照しながら、境界条件等各種データの入力、修正が可能
- ☆マウス入力とメニュー形式による操作性の向上

■解析機能

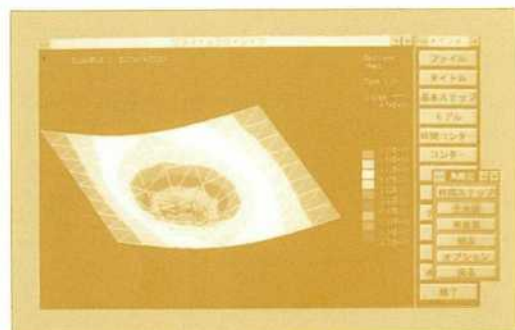
- ☆汎用機、EWS版と同一機能(順解析)、同一データフォーマット
- ☆約3000~10000節点までのモデルが解析可能
- ★降雨・揚水井・浸出面の取り扱いが可能
- ★水位・流量の経時変化
- ★境界条件の変更、材質の変更
- ★掘削機能・簡易漏水機能
- ★初期定常計算・非定常計算・最終定常計算

■ポスト処理

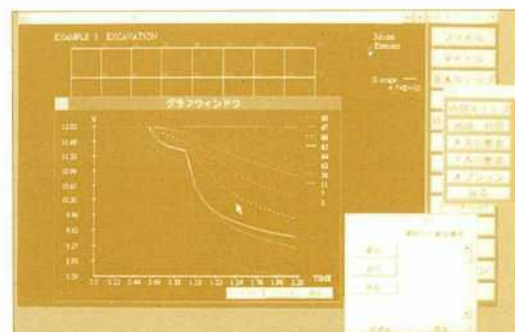
- ☆線画に加えて画面塗りつぶし処理が可能
- ☆水位の時間変化が簡単にグラフ化可能
- ☆マウス入力とメニュー形式による操作性の大幅な向上



【モデル図】



【全水頭コンター】



【水位変化グラフ】

動作環境

Windows Ver.3.1
CPU: 80386 以上 (推奨 80486DX 33MHz以上)
RAM: 8MB 以上
ハードディスク空容量: 10MB以上

- ・UNISSFは情報処理振興事業会の委託を受けて当社で開発したプログラムです。
- ・Windowsは米国マイクロソフト社の商標です。

問い合わせ先

株式会社 **CRC** 総合研究所

西日本事業部 科学システム営業部
〒541 大阪市中央区久太郎町4-1-3
TEL.06-241-4730 (担当/岩崎)

通商産業省 特別認可法人

情報処理振興事業協会 (IPA)

〒105 東京都港区芝公園3丁目1番38
TEL.03-3437-2301